

昭和南海地震による被害

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時 19 分に紀伊半島潮岬沖を震源とした M8.0 の地震が発生し、四国各地にさまざまな被害をもたらしました。今回は、徳島県阿南市と香川県高松市の被害の様子をお伝えします。

■徳島県阿南市の被害

現在の阿南市域では、地震により見能林村の津乃峰神社社務所と隣接の店舗が倒壊し神社職員 1 人が圧死したほか、那賀川町今津、橘町南新田などで地盤沈下が起こりましたが、被害の中心は津波によるものでした。津波の高さは、橘町鵠 4.9m、橘町西浜 3～3.3m、福井村湊 3.6m、椿泊 2.4～2.7mなどに達しました。この津波により、橘町では死者 1 人、負傷者 10 人、家屋の流失 50 戸、全壊 53 戸、半壊 196 戸、床上浸水 1,116 戸、船舶の流失 24 隻、大破 31 隻、福井では負傷者 5 人、床上浸水 127 戸、田の流失 50 町、船舶の流失 10 隻、椿泊では家屋の浸水 200 戸、船舶の大破 30 隻などの大きな被害が出ました。橘町西浜の電柱に「南海地震想定津波高」の表示がされています。＜阿南市史編集委員会編「阿南市史」1967 年、阿南市史編さん委員会編「阿南市史第五巻」2012 年など＞



■香川県高松市の被害

高松市では、地震により最初はドシーンと下から突き上げるような衝撃があり、続いてグラッと上下左右の揺れが始まり、揺れがしばらく続きました。そのうちに揺れ方は段々と波のような動きになり、歩くのも足元がおぼつかなくなるようでした。揺れは、高松管区気象台の地震計が吹っ飛び、記録不能になるほど強烈なものでした。高松市内での被害は、死者 24 人、家屋の全壊 17 戸、半壊 544 戸に及びました。この地震により、市内各所で上水道の配水管が破損し、御殿浄水場ではポンプが故障して送水できなくなりましたが、職員が徹夜作業で復旧させ、翌日には送水を再開することができました。また、朝日町、古高松地区、屋島地区などでは、地盤沈下のために井戸水に海水が浸入して飲料水として使えなくなるなどの被害も出ました。＜高松百年史編集室編「高松百年史下巻」1989 年＞

